

大変遅まきながら、「新年あけましておめでとうございませす。」

本年も立教小学校をお支えくださいますよう、お願い申し上げます。

~~~~~

三学期の始業礼拝は講堂で行いました。コロナ対策のため参加学年は、二年生と五年生。その他の学年は教室で映像による礼拝。児童のみなさんに、こんな話をいたしました。

始業礼拝、本当は一月七日の予定でした。

みんなも知っての通り六日の大雪。道路が凍ってツルツルすべる道を、学期始めて両手に大荷物を持った君たちを歩かせることは危険すぎるということで、始業礼拝を今日、十一日に延ばしました。

一月七日、「七草がゆ」を食べた人はいますか。あつ、多いですね。「七草がゆ」、文字通り、春の七種類の草と言うか、植物の入っているおかゆです。七種類のうちの「すずな」は「かぶ」のこと。「すずしろ」は「大根」のことです。その他の五種類は確かに草と言うか葉っぱのようなものです。

君たちがよく知っているのは、「なずな」ではないでしょうか。この「なずな」、別名「ぺんぺん草」とも言います。江戸時代の人も、七草と言うと「なずな」を真っ先に挙げたようです。「すずな」「すずしろ」「なずな」で、三種類。残りあと四種類ですね。

聞きなれない「ごぎょう」と呼ばれる草も入っています。この草も別名があります。草全体に白くやわらかな毛の生えた、黄色い花を咲かせる植物です。調べてみるといいかもしれません。

「ほとけのぎ」と言うのも七草のひとつです。植物図鑑を見ると「ほとけのぎ」として出ているのは、シソ科の紫の花が咲く植物だと思えます。これは、春の七草には入れませぬ。七草に入る「ほとけのぎ」は、別名「コオニタビラコ」と言う、キク科の植物です。あと二種類分かると完璧ですね。



江戸時代の人も七草がゆを食べていました。七草を刻むときに、こんな歌を歌いながら刻んだそうです。「七草なずな 唐土の鳥が日本国へ渡らぬ先に ストントントントン」

唐土(とうど)の鳥とは、中国の鳥という意味で、外国から来る妖怪。別名「うぶめ鳥」と言つて、夜でも目が見え、人が捨てた爪を食べるのだそうです。爪を食べるだけではなく、その爪の主の魂を奪うという怖い妖怪なのだとか。その妖怪が日本の国へ渡ってくる前に、ストントントントンと退治してしまえ、と言う意味の呪文の歌なのです。

江戸時代の人たちは、一月七日に七草がゆを食べるだけではなく、「七草爪」と言つて、七草がゆで余つた「なずな」を水に入れ、この水に爪を浸して、その後爪を切っていたようです。新年初の爪切りを、江戸の人たちみんながやっていたということ。「うぶめ鳥」が、大量の爪を狙つて飛んでくるわけです。

江戸時代の人たちは案外科学的で、目に見える恐ろしいものに命をとられぬようにと、健康を願つて七草がゆを食べ、衛生のために「七草爪」を切っていたのではないのでしょうか。

現代でも目に見えないコロナのウイルスと戦うのに、爪を切り、指先を清潔にすること、そして手をよく洗う事が大切です。みなさん、爪を切つてありますか。今日から給食も始まります。おしゃべりをせずに食べる、いわゆる「黙食」をさらに徹底させなくてははいけません。人が集まっているところでは、おへそと目を話している人に向けて、しゃべらない。オミクロン株と言う得体のしれない、うつりやすいウイルスがはやってきているようです。これまで以上に手洗い・消毒・黙食・換気に気をつけて、三学期を過(こ)してください。

~~~~~  
憎きオミクロン株、ストントントントンと退治したいものです。